

# 第18回 沖縄県医師会ドクターズフォーラム 「医師のための生成 AI のいろは」



女性医師部会 委員 當山 和代



## 第18回 沖縄県医師会ドクターズフォーラム

日時：令和8年1月19日(月)  
19時00分～21時00分  
場所：ハイブリッド開催  
(沖縄県医師会館+WEB 併用)

司会：女性医師部会 委員  
大宮医院 院長 知念 元恵

### 1 開会・挨拶

女性医師部会 部会長  
那覇市立病院 総合内科部長 知花なおみ

### 2 講演

演題「医師のための生成 AI のいろは」  
那覇市立病院 小児科科長 徳永 孝史

### 3 質疑応答・意見交換会

座長：女性医師部会 副部会長  
川根内科外科 兼城真理子

### 4 総括・閉会

女性医師部会 委員  
名嘉村クリニック 副院長 當山 和代

のいろは」をテーマに講演いただいた。講演後は、参加者より質問を受け付けながら意見交換を行ったので、以下に会の模様を報告する。

## 1. 開会・挨拶

知花部会長より概ね下記のとおり挨拶があった。

女性医師部会では、医師の働き方やオンライン診療等、その時々最新のトピックをテーマとして毎年本フォーラム開催している。今回は、言葉は耳にするものの実務や生活で活用しきれていない「ビギナー」を対象に、生成 AI の基礎を学ぶ場として企画した。AI 活用の「はじめの一步」を解説して頂く貴重な機会なので、知識を得るとともに、積極的にご質問頂き、意見交換を行っていただきたい。

## 2. 講演

(1)『医師のための生成 AI のいろは』

講師：那覇市立病院 小児科科長

徳永孝史先生

AI (Artificial Intelligence:人工知能) とは、ユー

去る1月19日(月)19時より、本会館を配信場所に、標記ドクターズフォーラムをハイブリットにて開催した。

今回のフォーラムでは、那覇市立病院 小児科科長 徳永孝史先生より「医師のための生成 AI

ザーのやりたいことに対して技術や知識の不足を補完する「パートナー」である。その進化の速度は「秒進分歩」と表現されるほど極めて速く、数週間単位で新しいモデルや機能が登場しているため、常に情報をアップデートし続ける姿勢が不可欠である。また、テキストのみならず画像、音声、動画など複数の種類(モダリティ)を処理できる「マルチモーダル化」が現在の重要なキーワードとなっている。

### 医師向けの実践的活用法について

実務面での具体的な活用として、英語論文の読解やスライド作成の効率化が紹介された。Google 翻訳や DeepL はレイアウトを維持したまま PDF を翻訳する機能が向上しており、Claude や ChatGPT などの AI にファイルをアップロードすれば、精度の高い要約や考察を生成できる。さらに、AI に SVG 形式 (Scalable Vector Graphics : 変倍ベクタ図形) で図表を出力させることで、パワーポイント上で再編集可能な高画質の資料を作成する手法や、Google の NotebookLM を用いてハルシネーション (もっともらしい嘘) を抑制しつつ正確な比較表を抽出する技術についても詳細な解説がなされた。

### 生成 AI の「闇」と医療活用の注意点について

無料版に入力したデータが AI の学習に利用され、機密情報が漏洩するリスクや、サービス側の規約変更によって意図せずデータが二次利用される懸念が事例を挙げて示された。特に、学習に利用しない設定であっても、AI 運営側の従業員などが内容を閲覧できる期間が存在することや、AI システムのバグによってチャット履歴が第三者の画面に表示されてしまった例もあり、情報漏洩のリスクはゼロにはならないことを理解しておく必要があると述べられた。

また、AI が事実とは異なる回答を生成する「ハルシネーション」は、様々な誤認を招く恐れがあるため、医療情報の正確性は必ず人間が最終確認しなければならないことが強調された。医療現場での安全な利用に向けた解決策として、学習に利用されない法人プランの契約や、

情報の外部流出を物理的に防ぐオンプレミス型 AI、医療専用クラウドの検討が挙げられた。

### 生成 AI の選び方とコストについて

主要な AI ツールの選択について、5 大 AI (ChatGPT, Gemini, Claude, Copilot, LLaMa) を比較する形で所感が述べられた。総合力の高い ChatGPT、Google サービスと親和性のある Gemini、論理的思考に優れた Claude、Office 製品との連携が強みの Copilot など、それぞれの特徴を理解して使い分けことが推奨された。コスト面では、月額 20 ドル程度のプランが主流だが、最新モデルの一部は制限付きで無料でも利用可能であり、目的や頻度に応じて最適なツールを選ぶことが重要である。

結びに、生成 AI はあくまで思考の補助ツールであり、最終的な判断と責任は人間が負うべきであるという原則が強調された。技術の進歩を拒むのではなく、セキュリティと倫理に配慮しながら賢く活用し、日々の業務負担を軽減していく姿勢がこれからの医師に求められているとの考えが述べられた。

## 3. 質疑応答・意見交換

講演後の意見交換では、参加者から実務に即した具体的な質問が相次ぎ、生成 AI の活用法やセキュリティに関する活発な議論が行われた。

### ・抄読会でのスライド作成について

Claude などの AI に論文 PDF をアップロードして要約させ、さらに SVG 形式で図表を出力させる手法が説明された。また、Google の NotebookLM が生成するスライドは PDF 形式で編集が難しいという課題があるが、国内の大学生が開発した「kirigami」というサービスを利用して編集可能なパワーポイント形式に変換するなどの、最新の補完技術も紹介された。

・英語論文を作成する際に推奨できる AI はあるか、また、今後、AI を使用し場合に投稿が制限される可能性等はあるか

DeepLによる翻訳や、AIを用いた資料整理、引用文献の構成案作成など、部分的に使用する方法が推奨された。また、AI利用にあたっては大学や病院が独自に規定を作成しておくことが望ましく、その規定に触れないよう情報流出のリスクを常に意識すべきであると警鐘を鳴らした。

・電子カルテとの連動できるAIはあるか

NECなどの大手ベンダーが開発を進めている段階であり、現時点で個人がクリニックレベルで導入できる安価なツールは限られている。

・外来診療での活用アイデアがあれば伺いたい

Google翻訳の音声同時通訳機能を用いた外国人患者への対応が挙げられ、専用のイヤホンがなくともスマートフォンで手軽に利用できる利便性が共有された。

・生成AIの「ハルシネーション（もっともらしい嘘）」への対策

引用元を明示させるプロンプトの工夫や、提供した資料のみに基づいて回答を生成するNotebookLMの活用が有効であると述べられた。

・AIの回答が過去の履歴に引きずられる現象について

記憶をリセットする機能を活用して常に「フレッシュな状態」で対話することが推奨された。

・課金プランの選択について

特定のサービスに固定せず、技術の進歩に合わせて月単位で柔軟にツールを切り替える姿勢が、コストパフォーマンスと最新機能の享受を両立させる上で良策ではないかとの考えが述べられた。

・AIの検索には有料ジャーナルの内容が含まれるか

AIが購読契約の必要な壁を越えて内容を閲覧することはできないため、PubMedなどの公開データベースからサマリーを検索し、論文の網羅性を確認する使い方が現実的ではないかとの回答がなされた。

4. 総括・閉会

當山和代先生より、概ね以下の通り総括があった後、閉会となった。

生成AIの進化はまさに「秒進分歩」の勢いであり、便利である反面、情報漏洩などのリスクに対する利用者の注意が極めて重要であることが再確認できた。今回のフォーラムを基礎として、より具体的な操作スキルを学ぶステップアップセミナーの開催も検討していきたい。

印象記

女性医師部会 委員 當山 和代

私は生成AIに関してビギナーで、今回の徳永先生のご講演を通して、初めて名前を聞く生成AIがいくつかあり、それぞれに得意分野があることを知りました。

生成AIによって、従来困難であったことが容易になる一方、“ハルシネーション”という現象で、誤った治療法や薬剤量が提示される可能性もあるため、医療現場で利用する際には十分な注意が必要だと感じました。

今後、生成AIは私たちの生活だけでなく医療現場においても、ますます欠かせない存在になっていくと思われます。そのため、生成AIの特徴や限界を十分に理解したうえで、どの分野でどのように活用していくのかを検討することが重要だと感じました。

単発にとどまらず、今後も継続的にアップデートして、ご講演いただきたいと強く感じられる大変有意義なフォーラムでした。